



TITLE:

時計雑話：口繪に添へて

AUTHOR(S):

---

CITATION:

時計雑話：口繪に添へて. 天界 1937, 17(194): 305-305

ISSUE DATE:

1937-05-25

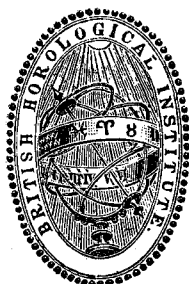
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167479>

RIGHT:

## 時 計 雑 話

——(口 繪 に 添 へ て)——



(大英時計學會  
の マ ー ク)

◇時を尊重するのは文明人の誇り！そしてその示威は、古來より都市の代表的建造物に必づ何等かの形態で大小の時計が公共向きに備へ附けられ、そうした建築の美的構成よりも、多くの人々への「時の」守り」と「尊嚴」を教へてゐる。又朝に夕に朗らかな鐘の音を傳へる塔時計は人間生活を慰め、社寺に奉納された時計は嚴肅の雰圍氣の中にも「時」と共に「心」の餘裕を施してゐる。

◇時の記念日の制定は新しいことではあるが、今より1276年の昔(紀元1321年)の6月10日、天智天皇未だ中大兄皇子にまします時、我が邦で初めて水時計を御作り遊ばれたのに依るのは衆知の事。花山天文臺を僅か東方1軒の山科の里に、この「時の帝」天智天皇陵を仰ぐのは奇しき縁り。——水時計とは水面に浮べた鉢で、その小穴を通して鉢に水が満され、一定時間を経て鉢が沈む時、番人は鐘を鳴らして時を報じた。

◇時を刻み、時間を測るあらゆる器械の製作は西洋での精密工作の端緒をなし、以來時計工學は300餘年の歴史を経た。——こうした結果生み出された最新式の精密振子は温度の變化を極度に嫌ひ、濕氣を恐れ、空氣のない空間を好む。精密部分は寶石をさへ慾求する。超世間的な！そして贅澤な！……終ひにはかくて、地球自轉の性能を凌がうとする技術者たらんとしてゐる。

◇膨脹係數0.0000009と云ふ特殊合金インヅールやエリンヅールで作つた振子でさへ數年も経てば、微量な延びが出て、歩度を危ふくする。これは實に1秒の萬分の幾つと云ふ數字ではあるが、長期の精密研究には條件を悪くする。水晶で作つた振子、水晶で振動せしめる高周時計、これらは斬新の精密時計として研究されてゐるが、今に地球自轉をそのまま天球時計として讀取りの出来る時代になると云ふ程の時計工學界の進歩ではある。——(葵星)